

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年8月7日
【四半期会計期間】	第56期第2四半期（自 2020年4月1日 至 2020年6月30日）
【会社名】	不二精機株式会社
【英訳名】	FUJI SEIKI CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 伊井 剛
【本店の所在の場所】	大阪市生野区巽東四丁目4番37号 （同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は「最寄の連絡場所」で行っております。）
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	大阪市中央区瓦町四丁目8番4号 井門瓦町第2ビル
【電話番号】	06（7166）6820（代表）
【事務連絡者氏名】	専務取締役 山本 幸司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第55期 第2四半期 連結累計期間	第56期 第2四半期 連結累計期間	第55期
会計期間	自2019年1月1日 至2019年6月30日	自2020年1月1日 至2020年6月30日	自2019年1月1日 至2019年12月31日
売上高 (千円)	3,326,591	3,200,876	6,592,925
経常利益 (千円)	207,428	66,186	342,353
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	167,396	27,124	289,818
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	135,665	76,422	247,453
純資産額 (千円)	1,491,381	1,523,698	1,639,106
総資産額 (千円)	6,281,796	6,693,315	6,984,946
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	21.65	3.44	37.32
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	21.41	3.42	36.94
自己資本比率 (%)	23.2	22.6	23.1
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	247,632	266,750	727,812
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	372,236	381,877	850,156
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	19,003	58,215	43,498
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	549,619	541,052	621,373

回次	第55期 第2四半期 連結会計期間	第56期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2019年4月1日 至2019年6月30日	自2020年4月1日 至2020年6月30日
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失() (円)	5.13	11.72

(注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大は、今後も当社グループの事業活動及び収益確保に影響を及ぼす可能性があります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

経営成績等の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、引き続き緩やかな回復基調にあるものの、米中通商問題などの海外経済の動向に加え、世界的な拡大を見せる新型コロナウイルス感染症の影響が懸念され、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社グループは、中期スロ・ガンとして「安心をお届けする不二精機グループ」を掲げ、品質管理体制の徹底強化によるグループ一体となった顧客満足の更なる追求を図り、精密金型のコア技術をもとに自動車及び二輪車などの成形事業分野への積極的な展開を行い、顧客への高付加価値製品の提供による安定受注の拡大に努めてまいりました。

また、「『考動』で価値を創る」をグループ全社員の行動規範とし、「お客様の利益の最大化」を目標に、新たな価値創造、また「5S活動」を基本とする着実な品質改善活動に取り組んでおります。

(1) 財政状態の状況

総資産は、前連結会計年度末に比べ2億91百万円(4.2%)減少し、66億93百万円となりました。

流動資産は、仕掛品が45百万円増加した一方、主に受取手形及び売掛金が1億48百万円、現金及び預金が86百万円、電子記録債権が77百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ3億12百万円(9.4%)減少し30億2百万円となりました。

固定資産は、主に投資その他の資産が21百万円増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ21百万円(0.6%)増加し36億91百万円となりました。

負債は、前連結会計年度末に比べ1億76百万円(3.3%)減少し、51億69百万円となりました。

流動負債は、短期借入金が2億66百万円、リース債務が47百万円増加した一方、主に支払手形及び買掛金が2億35百万円、未払金が84百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ73百万円(2.2%)減少し32億75百万円となりました。

固定負債は、リース債務が60百万円増加した一方、長期借入金が1億74百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ1億2百万円(5.1%)減少し18億94百万円となりました。

純資産は、主に利益剰余金が12百万円、為替換算調整勘定が75百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ1億15百万円(7.0%)減少し15億23百万円となりました。なお、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.5ポイント減少して22.6%となりました。

(2) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間の売上高は、精密成形品その他事業の売上高が、昨年インドネシアの子会社で実施した増産投資や秋元精機工業株式会社の連結子会社化の効果によって増加したものの、射出成形用精密金型及び成形システム事業の売上高が、新型コロナウイルス感染症の影響で顧客との間の検収手続きに遅れが発生したこと(射出成形用精密金型及び成形システム事業では顧客に検収をいただいた時点で売上を計上しております)などにより減少し、前年同四半期比1億25百万円(3.8%)減の32億円となりました。

損益につきましては、射出成形用精密金型及び成形システム事業の売上が減少したものの、精密成形品その他事業の売上が増加したことなどにより、営業利益は前年同四半期比20百万円(10.1%)増の2億25百万円となりました。しかしながら、主としてインドネシアの子会社での親会社(当社)よりの円建て債務などの評価替えて、急激な円高・インドネシアルピア安によって発生した為替差損1億32百万円を計上したことなどで営業外費用が1億40百万円増加したことにより、経常利益は前年同四半期比1億41百万円(68.1%)減の66百万円となりました。特別損益項目、法人税等を加え、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期比1億40百万円(83.8%)減の27百万円となりました。

セグメント別の経営成績は、以下のとおりであります。

<射出成形用精密金型及び成形システム事業>

売上高の約65%を占める医療機器用精密金型の売上高が、上記のとおり新型コロナウイルス感染症の影響で顧客との間の検収手続きに遅れが発生したことなどにより減少し、当セグメントの売上高は、12億76百万円(前年同四半期比20.6%減)となり、セグメント利益は前年同四半期比7百万円(4.3%)減の1億61百万円となりました。

なお、個別受注生産である当事業の未検収の受注残高は高水準で推移しており、各工場の稼働率は高い状態であります。

< 精密成形品その他事業 >

主力製品である自動車部品用成形品は、東南アジア市場を中心に中期的な受注をいただき、インドネシア及びタイの子会社で増産設備の稼働がスタートしたことに加え、秋元精機工業株式会社の連結子会社化により、当セグメントの売上高は、20億41百万円(前年同四半期比14.7%増)となり、稼働率向上の影響もあり、セグメント利益は前年同四半期比31百万円(82.9%)増の69百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末と比べ80百万円減少し、5億41百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、獲得した資金は、2億66百万円(前年同四半期は2億47百万円の獲得)となりましたが、これは主として、税金等調整前四半期純利益64百万円、減価償却費2億39百万円及び売上債権の減少1億24百万円等があった一方、仕入債務の減少1億61百万円及びたな卸資産の増加66百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は、3億81百万円(前年同四半期は3億72百万円の使用)となりましたが、これは主として、有形固定資産の取得による支出3億24百万円及び投資有価証券の取得による支出60百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、獲得した資金は、58百万円(前年同四半期は19百万円の支出)となりましたが、これは主として、長期借入金の返済による支出1億92百万円、リース債務の返済による支出68百万円及び配当金の支払額34百万円があった一方、短期借入金の純増による収入3億9百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更はありませんが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響については今後の経過を引き続き注視して参ります。

現在、射出成形用精密金型及び成形システム事業の各工場(松山、中国の常州)は高い稼働率を維持しておりますが、自動車部品用成形品を主力製品とする精密成形品その他事業の各工場(タイ、インドネシア、中国の上海)の一部では、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、稼働調整を実施しております。

今後の市場及び主要顧客からの情報収集を徹底し、稼働調整の終了後の増産に備え、平時には実施できない生産設備のメンテナンスや品質管理体制の整備・従業員研修などを重点的に実施しております。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は17百万円であります。なお、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設について、当第2四半期連結累計期間に重要な変更があったものは、次のとおりであります。

会社名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定年月		完成後の増加能力
				総額(千円)	既支払額(千円)		着手	完了	
PT. FUJI SEIKI INDONESIA	インドネシア共和国西ジャワ州	精密成形品その他事業	機械装置	80,180	59,660	自己資金及び借入金	2020年1月	2020年11月	-

(注) 1. 上記金額には、消費税等を含めておりません。

2. 投資予定金額及び完了予定年月を変更しております。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	23,720,000
計	23,720,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年8月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,054,000	9,054,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	9,054,000	9,054,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減 額(千円)	資本準備金残高 (千円)
2020年4月1日~ 2020年6月30日	-	9,054,000	-	500,000	-	85,588

(5)【大株主の状況】

2020年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
一般社団法人千尋会	大阪市天王寺区上本町8丁目4番15号	858	10.88
伊井 剛	大阪市天王寺区	463	5.87
株式会社きずな	東京都港区北青山2丁目7番2号	367	4.66
TOYO SECURITIES ASIA LTD (常任代理人 東洋証券株式会社)	SUITES 2301-02 & 16,23/F,CITYPLAZAONE1111 KING 'S ROAD,TAIKOO SHING,HONG KONG (東京都中央区八丁堀4丁目7番1号)	350	4.43
株式会社サンテック	堺市堺区戎島町2丁30番地1-802号	285	3.61
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	240	3.04
不二精機従業員持株会	愛媛県東温市田窪41-14	153	1.95
伊井 珠美	大阪市天王寺区	144	1.83
伊井 千尋	大阪市天王寺区	144	1.83
株式会社ユニ・ロッド	大阪市中央区淡路町2丁目6-11 淡路町パークビル4階	125	1.58
計	-	3,133	39.72

(注) 当社の保有する自己株式1,166,109株(持株比率12.87%)は、上記の表には含めておりません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,166,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,886,400	78,864	-
単元未満株式	普通株式 1,500	-	-
発行済株式総数	9,054,000	-	-
総株主の議決権	-	78,864	-

【自己株式等】

2020年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
不二精機株式会社	大阪市生野区巽東4丁目4番37号	1,166,100	-	1,166,100	12.87
計	-	1,166,100	-	1,166,100	12.87

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、仰星監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	627,373	541,052
受取手形及び売掛金	1,032,507	884,301
電子記録債権	218,916	141,716
製品	697,105	693,822
仕掛品	416,873	462,507
原材料及び貯蔵品	138,013	120,875
未収入金	48,155	36,325
その他	140,018	124,520
貸倒引当金	3,775	2,909
流動資産合計	3,315,189	3,002,212
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	696,116	683,031
機械装置及び運搬具(純額)	883,637	820,601
工具、器具及び備品(純額)	519,651	524,457
土地	598,912	598,912
リース資産(純額)	311,295	410,548
建設仮勘定	215,774	195,902
有形固定資産合計	3,225,388	3,233,454
無形固定資産		
のれん	38,760	36,822
その他	71,177	64,532
無形固定資産合計	109,938	101,355
投資その他の資産		
投資有価証券	90,237	138,638
長期貸付金	6,783	6,483
繰延税金資産	44,291	27,657
その他	204,663	194,857
貸倒引当金	11,545	11,343
投資その他の資産合計	334,430	356,293
固定資産合計	3,669,757	3,691,102
資産合計	6,984,946	6,693,315

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	825,846	590,157
電子記録債務	143,405	129,863
短期借入金	1,404,580	1,670,987
リース債務	77,265	124,673
未払金	319,609	235,182
未払法人税等	27,248	6,888
前受金	306,516	299,674
賞与引当金	88,981	67,445
製品保証引当金	27,116	25,290
その他	128,649	125,348
流動負債合計	3,349,219	3,275,511
固定負債		
長期借入金	1,755,213	1,580,870
リース債務	144,008	204,981
繰延税金負債	29,995	41,342
退職給付に係る負債	29,445	31,000
役員退職慰労引当金	14,539	14,539
資産除去債務	20,240	19,151
長期前受収益	3,177	2,221
固定負債合計	1,996,621	1,894,106
負債合計	5,345,840	5,169,617
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,000	500,000
資本剰余金	864,977	864,688
利益剰余金	308,685	296,377
自己株式	289,351	288,608
株主資本合計	1,384,312	1,372,457
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,557	8,651
為替換算調整勘定	223,693	148,538
その他の包括利益累計額合計	227,251	139,887
新株予約権	308	301
非支配株主持分	27,235	11,052
純資産合計	1,639,106	1,523,698
負債純資産合計	6,984,946	6,693,315

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
売上高	3,326,591	3,200,876
売上原価	2,604,159	2,447,441
売上総利益	722,431	753,434
販売費及び一般管理費	518,078	528,407
営業利益	204,352	225,027
営業外収益		
受取利息	696	489
受取配当金	1,087	135
受取補償金	2,507	1,695
為替差益	19,745	-
仕入割引	909	571
その他	3,715	4,553
営業外収益合計	28,661	7,445
営業外費用		
支払利息	19,279	24,921
為替差損	-	132,960
社債発行費償却	260	-
コミットメントライン手数料	-	4,881
その他	6,045	3,522
営業外費用合計	25,585	166,285
経常利益	207,428	66,186
特別利益		
固定資産売却益	2	-
特別利益合計	2	-
特別損失		
固定資産売却損	4,025	-
固定資産除却損	20	1,253
特別損失合計	4,045	1,253
税金等調整前四半期純利益	203,385	64,932
法人税、住民税及び事業税	32,523	23,012
法人税等調整額	2,258	29,176
法人税等合計	34,781	52,189
四半期純利益	168,603	12,743
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	1,206	14,380
親会社株主に帰属する四半期純利益	167,396	27,124

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	168,603	12,743
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	452	12,208
為替換算調整勘定	32,485	76,957
その他の包括利益合計	32,937	89,166
四半期包括利益	135,665	76,422
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	134,457	60,239
非支配株主に係る四半期包括利益	1,207	16,182

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	203,385	64,932
減価償却費	164,244	239,534
のれん償却額	-	1,938
株式報酬費用	226	4,483
貸倒引当金の増減額(は減少)	940	1,067
賞与引当金の増減額(は減少)	30,410	18,763
受取利息及び受取配当金	1,784	624
支払利息	19,279	24,921
為替差損益(は益)	31,782	101,790
固定資産除却損	20	1,253
有形及び無形固定資産売却損益(は益)	4,023	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	2,360	3,354
売上債権の増減額(は増加)	117,710	124,218
未収入金の増減額(は増加)	42,033	11,398
たな卸資産の増減額(は増加)	108,815	66,790
仕入債務の増減額(は減少)	9,895	161,711
前受金の増減額(は減少)	28,651	616
未払消費税等の増減額(は減少)	1,958	8,605
製品保証引当金の増減額(は減少)	4,782	1,826
社債発行費償却	260	-
その他	24,258	3,150
小計	281,075	320,968
利息及び配当金の受取額	1,784	624
利息の支払額	9,648	17,347
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	25,578	37,494
営業活動によるキャッシュ・フロー	247,632	266,750
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	-	6,000
定期預金の預入による支出	-	900
有形固定資産の取得による支出	355,802	324,950
有形固定資産の売却による収入	150	-
無形固定資産の取得による支出	11,121	2,961
投資有価証券の取得による支出	600	60,699
長期貸付金の回収による収入	165	300
その他	5,029	1,333
投資活動によるキャッシュ・フロー	372,236	381,877
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	80,000	309,929
長期借入れによる収入	150,000	-
長期借入金の返済による支出	151,970	192,935
リース債務の返済による支出	72,581	68,777
セール・アンド・リースバックによる収入	-	44,506
ストックオプションの行使による収入	2,488	447
配当金の支払額	26,939	34,954
財務活動によるキャッシュ・フロー	19,003	58,215
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,903	23,408
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	145,510	80,320
現金及び現金同等物の期首残高	695,129	621,373
現金及び現金同等物の四半期末残高	549,619	541,052

【注記事項】

(会計方針の変更)

一部の在外連結子会社では、第1四半期連結会計期間の期首よりIFRS第16号「リース」を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを四半期連結貸借対照表に資産及び負債として計上しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において有形固定資産の「リース資産」が115,714千円、流動負債の「リース債務」が47,030千円、固定負債の「リース債務」が68,339千円それぞれ増加しております。本基準の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。使用権資産の測定にはリース債務と同額とする方法を採用しており、この結果、期首利益剰余金への影響はありません。

なお、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の拡大により、わが国を含む世界各国の経済環境に多大な影響が生じております。今後の広がりまたは収束を予測することは困難であり、今後も当社グループの業績に影響が及ぶことが想定されます。

当社グループでは、2021年夏に向けて感染拡大が収束するとともに経済活動が徐々に感染拡大前の状況に戻るとの仮定に基づき、繰延税金資産の回収可能性の判断などの会計上の見積りを行っています。

なお、新型コロナウイルス感染症の収束時期は不透明であり、影響が長期化し、上記の仮定が見込まれなくなった場合には、将来において損失が発生する可能性があります。

(四半期連結貸借対照表関係)
 受取手形割引高

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
受取手形	54,652千円	15,580千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年6月30日)
給料	155,704千円	158,157千円
退職給付費用	5,473	5,723
賞与引当金繰入額	7,111	11,182
貸倒引当金繰入額	1,000	866

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年6月30日)
現金及び預金	549,619千円	541,052千円
現金及び現金同等物	549,619	541,052

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年3月28日 定時株主総会	普通株式	30,903	4.00	2018年12月31日	2019年3月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年3月27日 定時株主総会	普通株式	39,432	5.00	2019年12月31日	2020年3月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	射出成形用精密金型 及び成形システム事業	精密成形品その他事業	
売上高			
外部顧客への売上高	1,546,370	1,780,221	3,326,591
セグメント間の内部売上高 又は振替高	61,672	-	61,672
計	1,608,042	1,780,221	3,388,264
セグメント利益	168,313	38,022	206,336

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	206,336
セグメント間取引消去	1,983
四半期連結損益計算書の営業利益	204,352

当第2四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	射出成形用精密金型 及び成形システム事業	精密成形品その他事業	
売上高			
外部顧客への売上高	1,158,930	2,041,946	3,200,876
セグメント間の内部売上高 又は振替高	117,452	-	117,452
計	1,276,382	2,041,946	3,318,329
セグメント利益	161,084	69,553	230,637

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	230,637
セグメント間取引消去	5,610
四半期連結損益計算書の営業利益	225,027

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	21円65銭	3円44銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	167,396	27,124
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	167,396	27,124
普通株式の期中平均株式数(千株)	7,733	7,886
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	21円41銭	3円42銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(千株)	86	49
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年8月6日

不二精機株式会社

取締役会 御中

仰星監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 寺本 悟 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 坂戸 純子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている不二精機株式会社の2020年1月1日から2020年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、不二精機株式会社及び連結子会社の2020年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。